

情報分野における産業界とのマッチングについて

1. 概要

平成29年10月31日に開催された「大学協議体と産業界との意見交換に向けた準備会合」（第2回）に向け、10月上旬頃に大阪大学井上教授に協力を依頼し、「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点（enPiT）」事業関係大学担当者に対して産業界へのニーズ調査を実施。

調査結果を第2回準備会合にて紹介の上、経済団体を通して産業界側に共有し、内容に興味関心を持った企業等から各大学担当者に直接連絡を取っていただくことで産業界と大学側のマッチングを図った。

2. 結果概要

これまでニーズ調査実施後、フォローアップ調査を2回実施。現時点での結果は下記の通り。

計 4大学、4企業（4件）

3. 第1回フォローアップ調査結果について（H29. 12. 1時点）

12月1日現在における大学と企業のマッチング状況について、大学側と経済団体側（新経済連盟）にフォローアップ調査を行った。

大学側の調査結果

○産業界へのニーズ調査及び産業界とのマッチング状況フォローアップ調査に協力いただいた大学

16大学（17件）・・・東北大学、筑波大学、埼玉大学、千葉大学、東京工業大学、お茶の水女子大学、電気通信大学、京都大学、大阪大学、岡山大学、愛媛大学、九州大学、九州工業大学、公立はこだて未来大学、産業技術大学院大学、情報セキュリティ大学院大学

※マッチング状況フォローアップ調査については、1件未回答。

○企業等から連絡があった大学数（件数）・・・2大学（2件）

○企業等より連絡があった大学の詳細

①A大学

回答大学の担当分野	ビジネスシステムデザイン分野
連絡のあった企業等の業種	情報サービス
連絡が来た時期	10月31日
現時点の取組状況等	次年度以降の enPiT 事業のカリキュラムの中に、当該企業から提供いただけるコンテンツ（グループワーク形式による体験型集中講義等）をカスタマイズして組み込むことを相談・検討中。

②B大学

回答大学の担当分野	ビッグデータ・AI 分野
連絡のあった企業等の業種	メーカー
連絡が来た時期	11月中
現時点の取組状況等	企業側からは、PBL 課題について興味があるとの連絡があり、現在関係者でミーティングをするための日程調整を行っている（来年1月以降になる見込み）。

○今回のマッチングを図る取組について（大学からの意見）

- ・大学で実施している内容に対して、産業界からの要望を提示していただく逆のマッチングを実施していただくのもよいかと思います。
- ・取組を周知いただいたことで、上述のような産学連携へのご支援のご連絡をいただけたことはよかったです。
- ・新経済連盟等の団体を通じて、複数の企業をご紹介頂けるのは助かります。
- ・一般論として、このような取り組みは大変有用であると考えますので、今後とも継続していただきたい所存です。
- ・本学では、企業との連携を図る仕掛けを導入しているコースもあります。しかし、部分的であるため、このような取組はありがたいです。継続的に実施して行くべきであり、ホームページ等インタラクティブな仕掛けなどがあるとなお良いと考えます。
- ・産業界と大学のマッチングを図る場ができて、有意義に感じております。より多くの企業に本学や他学の取り組みを知っていただくことで、産業界のニーズを掘り起こすことができるマッチングが出来ればと存じます。
- ・地方の大学においては、産業界とのマッチングを図る取り組みを積極的に活用していきたいと考えています。
- ・セキュリティに関する分野は、産業界との連携が不可欠です。そういう意味で今回の取組は大変良いことであると思います。今回、残念ながら本学へのコンタクトはありません

でしたが、このような情報を組織的かつ定期的に提示することにより、産業界との連携が進むことを期待しています。

産業界側の調査結果

○産業界へのニーズ調査結果の産業界への周知方法

経済団体からの周知方法としては、まず大学名を伏せた上で産業界へのニーズ調査結果を会員企業に周知したが、基本的にニーズ調査結果一覧を提示するのみでは反応する企業がなかった。そのため、経済団体の担当者がニーズ調査結果の内容からマッチングできそうな企業を大学の担当者に提案するなど働きかけをし、反応があった企業をマッチングしている。

○大学との間で調整中の企業・・・3社（4件）

○大学と調整中の企業の業種・・・情報サービス業2社、メーカー1社

○大学側への講師派遣・教材提供等に関心がある企業

・・・12社（情報サービス業11社、専門・技術サービス業1社）

○産業界へのニーズ調査結果を提示しただけではマッチングが図れなかった理由について

- ・企業側がそれぞれ忙しく、メールも添付ファイルもそもそもよく読まれていない。
- ・企業側のメリットが必ずしも明確ではない。
- ・大学側ニーズが具体的過ぎることから、ぴったりそれに合うコンテンツを提供しなければならぬ、と解釈した企業が「提供可能な大学なし」と判断した。
- ・スタートアップでは、関心はあっても、コンテンツを提供できるだけの体力がない。

【第1回調査結果より】

大学側からはこのようなマッチングを図る取組については、概ね前向きで賛同が得られるような意見が多かった。しかし、大学側と企業側双方より情報を提供したのみではマッチングを図ることができず、それらをつなぐコーディネーターのような役割が必要と思われる。

4. 第2回フォローアップ調査結果について（H30. 3. 9時点）

3月9日現在における大学と企業のマッチング状況及びマッチング後の進捗状況について、大学側にフォローアップ調査を行った。

○企業等から連絡があった大学数（件数）・・・2大学（2件）

○企業等より前回フォローアップ調査以降新たに連絡があった大学の詳細

①C大学

回答大学の担当分野	ビジネスシステムデザイン分野
連絡のあった企業等の業種	情報サービス
連絡が来た時期	12月中
第2回フォローアップ調査時点の取組状況等	(1) 現在検討中の産学連携教育の取組内容 講師派遣やPBL支援について検討中。 (2) 上記についての現在の進捗状況 平成30年度の授業での出講やPBL支援に向けて、相手先と打合せを実施して現在調整中。

②D大学

回答大学の担当分野	セキュリティ分野
連絡のあった企業等の業種	情報サービス
連絡が来た時期	12月中
第2回フォローアップ調査時点の取組状況等	(1) 現在検討中の産学連携教育の取組内容 共同研究や講師派遣を検討中。 (2) 上記についての現在の進捗状況 既に連携校が産学連携教育を実施しているので、D大学を含む他の連携校への展開についてこれから議論する予定。

○第1回フォローアップ調査実施後の進捗状況調査概要

①A大学

回答大学の担当分野	ビジネスシステムデザイン分野
連絡のあった企業等の業種	情報サービス
連絡が来た時期	10月31日
第1回フォローアップ調査	次年度以降のenP iT事業のカリキュラムの中に、

時点の取組状況等	当該企業から提供いただけるコンテンツ（グループワーク形式による体験型集中講義等）をカスタマイズして組み込むことを相談・検討中。
第2回フォローアップ調査 時点の取組状況等	<p>（1）現在検討中の産学連携教育の取組内容</p> <p>講師を派遣いただき、PBLによって開発したプロダクトに対するビジネスモデルに関する集中講義を実施することを検討中。</p> <p>（2）上記についての現在の進捗状況</p> <p>平成30年度秋学期（10月～2月）での実施に向けて、特に内容やスケジュール等を先方と打ち合わせ中。</p>

②B大学

回答大学の担当分野	ビッグデータ・AI分野
連絡のあった企業等の業種	メーカー
連絡が来た時期	11月中
第1回フォローアップ調査 時点の取組状況等	企業側からは、PBL 課題について興味があるとの連絡があり、現在関係者でミーティングをするための日程調整を行っている（来年1月以降になる見込み）。
第2回フォローアップ調査 時点の取組状況等	現在、今年度の大学の取組内容を記載した資料を連携予定企業に送付し、確認事項等を問合わせ中。今後、具体的な取組に向けて打合せ予定。

【第2回調査結果より】

現時点においては検討を始めた段階の大学が多く、課題等については特に意見がなかった。ある大学からは、「産学連携教育に興味を持つ企業は意外に多いが、適切なコンタクト先が分からないケースが多いため連携まで進展していないことが多い。今回のマッチングのような形で企業側の適切な担当者からコンタクトがあると対応がしやすく大変助かる。」というコメントをいただいている。

<参考1> 情報分野における産業界へのニーズ調査回答様式

<参考2> 大学側への第1回フォローアップ調査表

<参考3> 大学側への第2回フォローアップ調査表

(回答様式) 情報分野における産業界へのニーズ調査

回答者：	
1. 産業界に求める教材・データ等	
①	対象となる授業・演習の概要
②	受講学生の学年、受講者数、 授業・演習の開講時期
③	求めるデータ、教材の概説
2. 産業界からの講師派遣への要望	
①	対象となる授業・演習の概要
②	受講学生の学年、受講者数、 授業・演習の開講時期
③	担当頂きたい講義・演習内容
④	講義・演習のボリューム（1 コマ：90分）
⑤	講師に求めるスキル・知識
3. その他、産業界への要望等	

産業界とのマッチング後のフォローアップ調査

当調査は、先日ご協力いただいた産業界へのニーズ調査について、産業界へ提示後の状況を確認させていただきたく、お願いするものです。つきましては、以下の内容について**平成29年12月1日現在**でご回答ください。青色セルはプルダウン選択、黄色セルは直接入力してください。

回答者（大学）名		分野	
----------	--	----	--

Q.1 企業等から連絡がありましたか。	
---------------------	--

※②なかったと回答いただいた場合、[Q.3へお進みください](#)。

Q.2 上記にて「①あった」と回答した方にお伺いします。（お手数ですが、複数企業から連絡があった場合は、適宜、行を追加し、企業ごとに御回答願います。）

（1）企業等名と業種、いつごろ連絡が来たかを記載してください。

①企業等名		業種		連絡が来た時期	
②企業等名		業種		連絡が来た時期	
③企業等名		業種		連絡が来た時期	

（2）現在進めようとしている取組及び進捗状況、今後の予定を教えてください。また、もし途中で交渉が終わり、取組まで至らなかったものがあれば、理由を教えてください。

回答欄

Q.3 今回、大学からの要望を提示し、産業界とのマッチングを図る取り組みを行いました。良かった点や改善すべき点等ご意見をいただければと思います。

回答欄

※当調査は結果を取りまとめの上、大学協議体（仮称）の会合にて資料（非公表）として使用させていただきます。

御協力いただきありがとうございました。

産業界とのマッチング後のフォローアップ調査②

当調査は、前回の調査において企業から連絡があったとご回答いただいた大学に対して、産業界とのマッチング後の進捗状況を確認させていただきたく、お願いするものです。つきましては、以下の内容について平成30年3月9日現在でご回答ください。

回答者（大学）名		分野	
----------	--	----	--

連携企業名	
-------	--

Q.1 現在検討中の産学連携教育の取組内容を教えてください。（例：データ提供、講師派遣、カリキュラム作成 等）

回答欄

--

Q.2 検討中の産学連携教育の取組について、現在の進捗状況を教えてください。（例：平成〇年度前期授業からの実施に向け相手先と打合せ中、講師派遣について必要な条件等を確認中等）

回答欄

--

Q.3 企業とのやりとりの中で課題と思われることや、大学として工夫をしていることがあれば教えてください。（例：必要となる費用や対応する教員の負担について、知財や秘密保持契約について、企業側の〇〇について学内手続きに時間がかかる 等）

回答欄

--

Q.4 その他、御意見・御要望がありましたらお知らせください。

回答欄

--

※当調査は結果を取りまとめの上、3月下旬開催予定の「大学協議体と産業界の意見交換」の資料として使用させていただきます。（資料の中で御回答いただいた内容が公表される可能性があります。大学名を伏せる等、回答大学が特定されないように配慮いたします。）

御協力いただきありがとうございました。